

2012年4月20日

派遣者 佐藤慶子（京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科
グローバル地域研究専攻・研修員）
派遣先 インド国タミルナードゥ州チェンナイ市、マドゥライ市
西ベンガル州コルコタ市、オリッサ州ブバネシュワール市
派遣期間 2012年1月10日～4月10日（91日間）

1. 派遣の目的

本派遣の目的は次の3つである。1) “祭り”に関するフィールドワークを行い、南インドの農村社会構造の理解に繋げる、2) タミルナードゥ州以外の他州を訪問し、タミルナードゥ農村との比較考察に益するべく視野の涵養をはかる、3) 人の移動（特に、労働力の農村から都市への移動）に着目して、都市部における経済発展の様子をつぶさに観察するため、都市部に滞在して図書館などで文献調査を行う、である。特に1) マドゥライ県の農村調査では、本プログラムの海外パートナー機関の一つであるタミルナードゥ農業大学（TNAU）の研究者に2007年に紹介して頂いた村の近辺を調査地としている。

2. 派遣の概要

1) では、タミルナードゥ州マドゥライ県の農村でフィールドワークを行い、マドゥライ県立図書館や神智教会（Theosophical Society）マドゥライ支部で文献調査を行った。

マドゥライ県でカースト自治組織¹により伝統的に担われてきた村祭りのうち、ジャリカット（*Jallikattu*）と呼ばれる『祭り』を取り上げて、過去に行った調査村の社会構造に関する追加調査も併せて行い、農村社会構造の解明を行うことを目的とした。

1月中旬に行われる米の収穫祭であるポンガル祭りでは、特にタミルナードゥ州マドゥライ県や近隣県では、ジャリカット（=*Jallikattu*、英語で“bull taming”と訳）と呼ばれる『牛追い競技』が行われている。南インド農村における社会構造を経済社会面から理解するために、追加的な聞き取り調査を行った結果、次の気づきが得られた。

ジャリカットを主催するカーストは村のレベルを超えて開催地域一帯で祭りに向けて結束して行動を起こすが、その一方で、他のカーストは、ジャリカットを主催するカーストからの要請を受けて、同じカースト世帯から参加費を徴収するなどして、祭りの開催を側面支援していた。

¹ 詳細は、佐藤慶子[2012]『インド農村における地域社会の仕組みと組織的行動』重富真一・岡本郁子編「アジア農村における地域社会の組織形成メカニズム」2011年度・調査研究報告書・アジア経済研究所、を参照。

2) では、インド東部に位置するオリッサ州（ブバネシュワール）および西ベンガル州（コルコタ）の市内に滞在し、西ベンガルの都市や農村に関する情報収集を行って、今後の調査の可能性を探った。

ブバネシュワールでは本プログラムの受け入れ教員である田辺教授にお会いし、近況報告を行った。プリーでは滞在したホテルで従業員の結婚式に立ち会い、オリッサ州における農村から都市への労働力移動に関する話も伺った。

西ベンガル州ではマニプール州出身の方の招待でコルコタ近郊農村に行く予定だったが、移動日にゼネストが行われて農村滞在はかなわなかった。そのためコルコタのキリスト教会の牧師一家の所に滞在して、マザーテレサの手伝いをしていたという牧師から西ベンガルの政治や歴史の話も伺った。

オリッサ州や西ベンガル州に滞在するうちに、これまで調査を行ってきたタミルナードゥ州で見聞したタミル人の気質は、ここで出会う人々とはかなり異なることに気がついた。本来の調査地を一步離れて比較考察する機会を持つ事の大切さに今更ながら気がついた次第である。

3) では、タミルナードゥ州チェンナイの市街中心部に滞在し、アンナ中央図書館（Anna Central Library）を利用して文献調査を行った。

チェンナイでは、文献調査を行いながら調査結果をまとめることに専念した。研究場所は、数年前に開館した9階建てで全館冷房完備のアンナ中央図書館で、市バスで通ってマドライの調査結果をまとめる為に利用した。

チェンナイでは最近次々と新しい施設が完成しているが、インドでも他の都市に先駆けて2か所目の国際空港の建設が開始されるなど、インフラ面の充実が伺える。そのためか、農村部と都市部の間の通勤者や普通の生活者の往来もさかんで、他の研究者が指摘している「都市近郊における農村部の『都市化』の傾向」も、納得できるものである。

3. 今後の課題

今回のインド派遣では結果的に情報収集などのインプット面に重点が置かれたものとなったが、今後は、今回の調査結果・経験を活用してアカデミックコミュニケーションをはかり、自身の研究に対する姿勢や方法を洗練させてゆきたいと考える。

4. 謝辞

本派遣中には次の方々にお世話になりました。京都大学大学院アジアアフリカ地域研究研究科・田辺明生教授、同研究科・頭脳循環プログラム事務局および事務部、クリスチャン・フェローシップ教会・牧師ジェームス・ダス氏、ホイコーネム・ランキン氏、タミルナードゥ農業大学修士課程・ラジャシーカラン・レドディー氏、原島かおり氏。記して感謝します。

5. 備考

本調査結果の詳細は、本プログラムの最終報告書（2013年3月末完成予定）をご参照下さい。



写真1 ジャリカット競技場



写真2 乗り手をかわして逃げた牛



写真3 ブラーミン司祭による結婚式準備



写真4 アンナ中央図書館